

事務事業名		漁業集落排水施設維持管理事業				☐ 実施計画登載事業		☒ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	02 自然豊かな環境の保全と創造				事業期間		予算科目				
	施策名	04 良好な河川・港環境の保全						会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 公共下水道等の整備				☐ 単年度のみ		17	01	01	01	02
所属	根拠法令	水質汚濁防止法、浄化槽法、漁業集落排水施設設置管理に関する条例・施行規則				☒ 単年度繰返 (開始 平成元 年度～)						
	部課名	都市整備部下水道事業所				☐ 期間限定複数年度						
	課長名	千葉 譲				【計画期間】						
	係名	業務係				年度～ 年度						
	担当者	高木 隆幸				※全体計画欄の総投入量を記入						
		電話	0192-27-3111									
		内線	201									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)												
・市内5箇所の終末処理場の維持管理を民間業者に見積を提出させ、低廉な業者に業務委託している事業。 ・主な業務は、実施の前年度末に見積書を業者から徴し、年度当初最も低廉な業者に業務を発注、終末処理場の維持管理(委託)、履行を確認し委託料の支払いを行う。 ・事業費は、業者への管理委託料として支出される。												
全体計画(※期間限定複数年度のみ)												
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金										
		都道府県支出金										
		地方債										
		その他										
		一般財源										
		事業費計(A)	0									
		人件費	正規職員従事人数									
	延べ業務時間											
	人件費計(B)	0										
	トータルコスト(A)+(B)	0										

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称 単位
見積の徴取、契約、履行確認、支払い	ア 見積徴取件数 件
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ 終末処理場からの汚泥抜き取り量 m3
前年度と同様。	ウ
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)
漁業集落排水の終末処理施設	名称 単位
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	カ 施設数 箇所
施設を適正に維持管理する。	キ
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	ク
港湾・河川への環境負荷を軽減し、公共用水域の水質を保全する。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)
	名称 単位
	サ 故障・事故件数 件
	シ 故障・事故による停止日数 日
	ス 水質検査不適合件数 件

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	事業費	財源内訳	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
			千 円						
			千 円						
			千 円	6,630	18,637	26,278	26,912	13,500	13,500
			千 円						
			千 円	6,630	18,637	26,278	26,912	13,500	13,500
	人件費	正規職員従事人数	人	2	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時 間	180	180	180	180	180	180
		人件費計 (B)	千 円	720	720	720	720	720	720
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	7,350	19,357	26,998	27,632	14,220	14,220
⑤活動指標		ア	件	8	5	3	4	4	4
		イ	m3	365.4	433.8	820.8	950	360	360
		ウ							
⑥対象指標		カ	箇所	5	5	5	5	5	5
		キ							
		ク							
⑦成果指標		サ	件	9	11	20	2	2	2
		シ	日	0	0	0	0	0	0
		ス	件	0	0	0	0	0	0

事務事業ID	0706	事務事業名	漁業集落排水施設維持管理事業
--------	------	-------	----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
大船渡市の基幹産業である水産業を良好な水質で行なうため、また、トイレの水洗化などによって衛生的な環境を作り、地域住民の保健衛生に寄与する。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
漁業集落排水施設の増加、利用者の増加、対象エリアの拡大

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
住民から、住環境と生活の糧となる周辺海域の水質の向上に繋がっているとの声がある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 漁業集落排水施設を維持管理することで、公共水域の水質の保全が図られる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 法律等によって定められている。「大船渡市漁業集落排水施設設置管理に関する条例」等
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 適切である ⇒【理由】 漁業集落排水施設の維持管理事業において、維持管理の業務を委託しており、放流する水質面、衛生面でも良好な状態が保たれており、現状のままでよい。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 放流水の透視度、BODともに基準値内であり、これ以上の成果の向上はない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 同地域には、多くの住民が居住しており、漁業集落排水施設の維持管理がなされなくなると、施設の正常な稼働が見込めなくなり、結果汚水などの垂れ流しが発生し、公共用水域の水質の保全がなされなくなる可能性がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 施設の規模によって施設管理の資格の有無の違いや地元業者の活用等で統廃合・連携等にはなお課題がある。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 広報紙等で汚水の正しい流し方等を周知することにより、施設の故障等を未然に防ぎ経費の削減を図る。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 すでに、民間業者に保守管理を委託しており、契約時の事務や落雷などの事故の場合を除き、施設管理には携わっていない。管理者として月1回程度の点検を行っている。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 加入負担金、使用料の徴収(水道料金に含まれる形での徴収)をしており、負担は適正である。

事務事業ID	0706	事務事業名	漁業集落排水施設維持管理事業
--------	------	-------	----------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																	
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	広報紙等で汚水の正しい流し方等を周知し、施設の故障等を未然に防ぎ経費の削減を図ったが、今後も継続の必要がある。					
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)	(4) 改革・改善による期待成果																	
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☐ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) 広報紙等で汚水の正しい流し方等を周知することにより、施設の故障等を未然に防ぎ経費の削減を図る。	☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)							
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持														
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																		
<table><tr><td rowspan="4">成果</td><td>向上</td><td>●</td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		成果	向上	●			維持			×	低下		×	×				
成果	向上		●															
	維持				×													
	低下			×	×													
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし																		

4 事務事業の2次評価結果	(職 名) ※原則として施策の主管課長 (氏 名)
2次評価者	下水道事業所長 千葉 譲

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																		
①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)																		
☐ 記述不足でわかりにくい																		
☐ 一部記述不足のところがある																		
☒ 記述は十分なされている																		
②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)																		
☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)																		
☐ 一部に客観性を欠いたところがある																		
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																		
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由																	
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	災害復旧後、放流水の水質が高水準を維持しており、適切な処理が行われているが、維持管理費が大幅に増加しており、更なる効率化が求められる。					
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)	(5) 改革・改善による期待成果																	
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☐ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) 現状どおりの処理水準を維持しつつ、計画的な修繕や省エネの徹底等により事業費の圧縮に努めると共に、発注方法の見直し等、効率的な維持管理のあり方について検討を進める。	☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)							
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持														
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																		
<table><tr><td rowspan="4">成果</td><td>向上</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>●</td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		成果	向上	○			維持	●		×	低下		×	×				
成果	向上		○															
	維持		●		×													
	低下			×	×													

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項